



中央大学学員会白門化学クラブ支部

白門化学クラブ会報

第3号（平成22年度総会特集）



新第2号館

平成23年3月31日発行

中央大学学員会白門化学クラブ支部
中央大学理工学部応用化学科内
白門化学クラブ事務局

〒112-8551

東京都文京区春日 1-13-27

E-mail 開設準備中

URL 開設準備中

東北関東大震災により、お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された地域の皆様に心よりお見舞い申し上げます。

被災地そして避難先の皆様の生活が一日も早く復興することを心よりお祈り申し上げます。

また、今なお昼夜を問わず災害対策にご尽力されている方々、復興に向け新たな取り組みをスタートさせた方々、全国各地で支援と励ましのエールを送る方々に心から敬意を表します。



“がんばろう！日本”

探査機「はやぶさ」の帰還、東京スカイツリー634メートル到達と日本の平成23年は飛躍の年となるはずでした。

本年2月の幹事会において、平成23年度総会を後樂園キャンパス新2号館竣工後の5月開催と決め、鋭意準備を進めてまいりました。

このたびの未曾有の大災害の先行きの不透明さがしばらくの間継続することが予想されることから、本年度の総会開催を断念することといたしました。一年ぶりの再会を楽しみにされておられた皆様には大変申し訳ない思いです。

私たち白門化学クラブ学員の知見と技術は、地域や事業体での活動を通して、日本の新たな出発に、被災地の復興と産業の再建に、必ずや貢献出来るであろうことを信じております。

来年、平成24年5月、晴れやかにお会いできることを楽しみにしております。

支部長 堀中 新一

平成23年度計画

会報発行（9月、3月）

ホームページ開設

東北関東大震災について

幹事長 近藤明義

地震、津波、原発事故と未だ終結の気配が見られない状況ですが、被災地区会員の方々に電話で様子をうかがいました。

鶴岡由治様（茨城県笠間市 2S29）（奥様談） 被害なし

黒石研史様（茨城県ひたちなか市 5S32）被害なし

魚津信夫様（茨城県筑西市 6S33）被害なし

左雨六郎様（福島県福島市 5S32）（奥様談） ほとんど被害なし

北爪 宏様（茨城県日立市 7S34）被害なし（高台のため）

柴 真 様（茨城県つくばみらい市 7S34）被害なし

白川 勇様（茨城県鹿嶋市 8S35）（奥様談） 自宅屋根瓦が落ちた。人災なし

中央大学学会会久野修慈会長の呼びかけに対して、幹事会の賛同を得て「白門化学クラブ」名で、義援金として金一万円を中央大学学会の募金口座に振込をいたしました。

中央大学学会支部長 各位

平成23年3月24日

中央大学学会
会長 久野 修 慈

「東北関東大震災被災者救援義援金」へのご協力について

標記につきまして、取り急ぎご案内申し上げます。

このたびの東北関東大震災におきましては、想像をはるかに超えた規模のなかで、会員の方々、学生諸君とご父母の皆さまなど中央大学関係者の被災が想定されます。謹んでお見舞い申し上げます。

学会はこの震災について、前記の中央大学関係の方々など被災者に対しまして、会員の皆さまから「救援義援金」のご協力をいただくことにいたしました。

多くの組織、機関などが募金等の活動をしているなかで、さらにご負担をお願い申し上げることになり、まことに恐縮でございますが、学会として被災された方々への激励とお見舞いを申し上げたく、支部長の皆さまにご案内申し上げます次第です。

事情ご高察賜りまして、よろしくおとり計らい下さい。

なお、被災地の状況がまだ明瞭でない現在、またお寄せいただく義援金の被災者への送達方法など具体的内容の検討が不十分ななかでの活動開始でございますが、今後、会員時報などにおいてお知らせしてまいりたいと存じております。

義援金お申し込み要領

1. お申し込み先 中央大学学会
 2. 振込先 東京都民銀行神田支店
 3. 口座名 中央大学学会東北関東大震災救援募金口
 4. 口座番号 普通 4059341
 5. 受付期間 平成23年9月30日まで
- その他
○物資は受け付けはいたしません。
○この義援金は寄付金控除の対象とはなりません。

新潟からの便り

瀬戸晶成 (32S59)

幸い自宅も職場も全く被害はありませんでした。新潟県では報道にはほとんど出てきませんが、長野県栄村を震源とする長野県北部地震の影響により、十日町市、津南町、上越市などかなりの被害があり、被災生活を余儀なくされている世帯が多くあります。何せまだ雪が2m以上もあり、かんじきを履いて調査に入っているようですが、余震が続いて雪崩の危険があり、また雪も掘り起こせないで、家の土台や上下水道の配管などの被害状況は全くつかめない状態です。新潟県内には現在九千名弱の被災者が避難生活をしています。原発のこともあり、僕の自宅のある長岡市でも今回は長期化が必至と考えているようです。このまま新潟県内に留まる世帯もあるかもしれません。

第 31 回総会、講演会並びに懇親会報告

総 会

幹事 林 正道

平成 22 年 9 月 25 日（土）母校後楽園キャンパス 6 号館 3 階（6325 室）で開催しました。当日は台風の影響で、午前中は小雨まじりだったが午後から晴間がみえてきた。後楽園キャンパスは現在、生協とテニスコートの跡地に地上 9 階、地下 1 階の新 2 号館を建設中で 6 号館に行く校庭が狭くなっていた。総会に先立ち行われた講演会は、工業化学科昭和 34 年卒の八田幹雄氏（八田国際特許業務法人所長）で、テーマは「特許制度から知的財産法へ」。弁理士という仕事／知的財産法について／知財職人としての 50 年のあゆみという内容を 1 時間 30 分にわたり講演をしていただいた。

支部総会は、堀中支部長の開会の挨拶で始まり、近藤幹事長の司会で、議長に橋澤氏を選出。平成 21 年度活動報告／同決算報告／規約改訂／平成 22 年度活動計画／同予算案が審議され、満場一致で承認された。

懇親会は 5 号館食堂で開催、田澤幹事の司会で進められた。ご来賓の辻本大学常任理事・学会副会長からは 125 周年記念式典と最近の大学並びに学会の現況について紹介いただき、学会創立 125 周年記念プロジェクト推進本部事務局中島課長には記念事業の詳細について説明をいただき、後楽園キャンパスの石井理工学部長、応用化学科の新藤主任教授、大石教授からは、理工学部、応用化学科の発展の様子や新 2 号館の完成予定等をお話いただいた。秋山幹事の乾杯の後は、中田先生も笑顔いっぱい全員和やかな雰囲気の中で久しぶりの再会に話が弾んだ。中締めは柳奥幹事が行い、全員で校歌斉唱をして散会した。来年の新 2 号館の見学を楽しみにしたい。



平成 21 年度活動報告(平成 21 年 10 月 1 日～平成 22 年 9 月 30 日*)

1. 支部学員動向 期初 245 名 退会 1 名 現在 244 名
訃報 安藤興治(昭和 38 年卒)平成 21 年 9 月逝去
2. 総会の開催 平成 21 年 10 月 3 日 中央大学後楽園キャンパスにおいて開催 会員 39 名(内 1 名は家族)詳細は会報第 1 号にて報告済み
3. 会報の発行 平成 22 年 3 月 1 日 第 1 号、平成 22 年 8 月 19 日 第 2 号を発行済み
4. 幹事会の開催 平成 22 年 2 月 5 日 中央大学学員会会議室 出席者 10 名(主な議題:活動方針、規約改定 平成 22 年 6 月 18 日 中央大学後楽園キャンパス 出席者 9 名

主な議題:総会準備、事業検討

5. 特記事項

- 1) 支部役員の交代 詳細は会報第 1 号にて報告済み
- 2) 学員会支部活動支援強化補助費(平成 21 年度)申請
- 3) 学員会関係
 - ①役員 改選年度に当たり以下の役職への委嘱があった。任期は平成 22～25 年度。
幹事 堀中新一 協議員 齋藤好雄、近藤明義、林 正道、柳奥茂樹(新任)
 - ②会議 平成 22 年 5 月 14 日全国支部長会、15 日定時協議員会(齋藤、林)出席
詳細は学員時報

*平成 22 年 9 月度については、次期活動とする。

平成 22 年度活動計画(平成 22 年 10 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日)

1. 平成 22 年度白門化学クラブ支部総会・講演会の開催
平成 22 年 9 月 25 日、後楽園キャンパスにおいて開催
2. 白門化学クラブ会報第 3 号の発行
平成 22 年度総会(9 月 25 日開催)の報告及び総会出欠通知葉書での皆様の近況等を掲載する予定です。白門化学クラブ会報第 3 号の発行は平成 23 年 3 月末を予定しております。
3. 総会出席者の確保
前回総会(平成 21 年 10 月 3 日開催)の出席者は 39 名でありましたが、今回の総会出席予定者は 21 名(9 月 14 日現在)でおおよそ半減しておりますので、出席の皆様にお仲間の会員に電話等で一声かけていただき次回総会出席者を増やしたくご協力をお願い申し上げます。
4. 事業活動
学員会事務局福岡部長より、学員会事業として理工学部学生に対する就職支援活動を計画してほしいとの要望がありました。
当支部の力でどのような活動ができるのか、また支援活動をどのように理解したらよいかのわからないながらも総会時の講演会に学生の参加を認め、学生との接点をはかることにより支援活動の方向性が出てくるのではないかと考えております。
まずは講演会にいかにして学生を集めるかが問題ですが知恵を出したいと思います。



講演会

総会に先立ち、八田講師作成のレジュメ（A4版12頁）により、大学講義さながらの講演をいただいた。

（このポスターを掲示し学生の参加を期待したが、PR不足であった。）

聴講自由 直接、教室において下さい。

弁理士 と **知的財産法** についての話を聞いてみよう。

9月25日(土)午後1時30分～午後3時
後楽園キャンパス 6号館 3階 6325号室

白門化学クラブ講演会

特許制度から知的財産の世界へ

—「知財職人」としての50年—

講師 弁理士 八田幹雄(八田国際特許業務法人 所長)

- * 弁理士という仕事
- * 知的財産法について
- * 「知財職人」としての50年のあゆみ

講師紹介

八田幹雄さんは、1959年(昭和34年)、本学工学部工業化学科(現 理工学部応用化学科)を卒業し、化学会社に就職、社会人としての新たな人生を踏み出します。学生時代には、専攻した化学工学の知識を生かし、化学プラントの設計・建設を担当することを希望していましたが、社内での配属先は特許課でした。ここから、八田幹雄さんの職業人としての人生が始まります。

講師プロフィール



八田 幹雄

所長
 学歴 中央大学工学部工業化学科卒業
 中央大学理工学部精密機械工学科卒業
 中央大学法学部卒業
 職歴 株式会社日本触媒
 東京特許事務所
 弁理士登録 1982年3月
 付記登録(特許侵害訴訟代理)
 外国語 英語
 会員 前アジア弁理士協会副会長、
 前アジア弁理士協会日本支部副会長、
 AIPTI、FIPTI、商標協会、日本化学会、高分子学会
 その他の資格 前東京地方裁判所民事調停委員
 専門分野 化学工業全般、有機・無機化学、触媒、高分子、
 プラスチックの成形加工、化学プロセス・装置、
 半導体、二次電池、燃料電池、医療器具、商標、訴訟

主催 中央大学学員会白門化学クラブ支部

総会出席者

ご来賓

中央大学常任理事 中央大学学員会副会長 辻本京朔先生
中央大学理工学部長 石井洋一先生
中央大学理工学部応用化学科主任 新藤 斎先生
中央大学創立 125 周年記念プロジェクト
推進本部事務局課長 中島 章夫様

会 員 (敬称略)

第 1 回昭和 28 年 (1953) 3 月卒業	中田 常雄 牧 吉雄
第 7 回昭和 34 年 (1959) 3 月卒業	秋山 堯 栗原 功 八田 幹雄 柴 眞 大垣 浩之
第 8 回昭和 35 年 (1960) 3 月卒業	清水 康光 橋澤 晃
第 10 回昭和 37 年 (1962) 3 月卒業	堀中 新一
第 11 回昭和 38 年 (1963) 3 月卒業	佐藤 義明 齋藤 好雄 滝沢 孝一
第 13 回昭和 40 年 (1965) 3 月卒業	阿部 富男 近藤 明義
第 15 回昭和 42 年 (1967) 3 月卒業	井手 俊二 大嶋 久義 根津 達郎
第 16 回昭和 43 年 (1968) 3 月卒業	林 正道 峯岸 修三
第 17 回昭和 44 年 (1969) 3 月卒業	堀中 武郎
第 25 回昭和 52 年 (1977) 3 月卒業	柳奥 茂樹
第 29 回昭和 56 年 (1981) 3 月卒業	田澤 和久
第 35 回昭和 62 年 (1987) 3 月卒業	住吉 宏明



総会案内葉書近況報告・コメント(平成22年8月末t現在)(敬称略)

西山清治 (11 S 38 神戸市)

多忙のため欠席します。

鈴木美夫 (18 S 45 東京都北区)

昨年(平成21年)9月に、夫 美夫は永眠いたしました。生前の御厚情に深く感謝いたします。貴会のみますますのご発展を心より御祈り申し上げます。

跡部真人 (41 H 5 横浜市)

45年3月に卒業しました。その後、大学院生、教員として17年間東工大にお世話になり、平成22年7月に横浜国立大学環境研究院に教授として着任いたしました。母校中央大学及び応用化学科の益々の御発展を祈念しております。

渡辺克洋 (13 S 40 北杜市)

地域のお世話を引き受けて適度に忙しく過ごしております。化学とは関係のない日々ですが自然の大切さと恐ろしさを感じています。

中本定夫 (7 S 34 入間市)

同期の講師の講演会を聴講できないのは、残念かつ申しわけないが、公用にて悪しからず。

池田正博 (11 S 38 長野市)

サンリン(株)退職後、県LPガス協会で第二のお務めを終了。今は町の役員として地域のお役に立つようガンバッテいます。

杉本八郎 (17 S 44 京都市)

2010年4月より京大薬学部最先端創薬研究センターを立ち上げ、そこの客員教授としてアルツハイマー病の研究をしております。

相澤一男 (9 S 36 町田市)

左足膝骨変形症で苦しんでいます。

南方潤三 (6 S 33 武蔵野市)

去る8月9日誕生日で75才後期高齢者の仲間入りしました。まだ、ナカジマプロペラ(株)(岡山市)の非常勤顧問として働いております。しかし、整形外科(背柱管狭窄症)、皮膚科および内科(高血圧症等)に通い、薬の服用をしなければならなくなっています。

千葉 亨 (7 S 34 新潟市)

いつも御連絡有難うございます。

渡辺邦夫 (8 S 35 東京都渋谷区)

今年の暑さには参りましたが、栄養剤を飲みながら何とかがんばっています。

大石愛祐 (11 S 38 松戸市)

良好な住環境維持、地球温暖化防止、生物多様性の維持発展等のために、地元で里山保全整備活動に参加中、7月下旬に強度の腰痛を発症し、目下治療中にて、今回は欠席します。よろしくお願ひします。

金寿幸男 (5 S 32 鎌倉市)

私は元気に日々過ごしています。今年の総会は故安藤興治氏の法事と重なってしまいましたので欠席させていただきます。

町出 保 (2 S 29 東御市)

御連絡ありがとうございます。元気ならば顔を出したいが脚力の低下で出掛けられません。運動不足で……。後輩の皆々益々ご活躍して下さい。老兵は消える頃か、いや100才まで生きる心意気がありますか???

金井文彦 (8 S 35 神奈川県葉山町)

何時もお世話様です。今後共よろしくお願ひいたします。

瀬戸晶成 (32 S 59 長岡市)

緑川酒造(株)で管理課長をしています。社内外で新潟清酒業界のために中核として忙しく働いています。新潟清酒達人検定の公式テキストブック編集、試験問題作成等もしています。来年(平成23年)3月12日、13日は「にいがた酒の陣」が開催されます。2日間で8万人程度の来場が予想される新潟最大の日本酒イベントです。ぜひお越しください。

岡本義隆 (5 S 32 市川市)

25日に長兄の法要の知らせが来ましたので残念ながら欠席させていただきます。

堀本泰之 (11 S 38 千葉市)

現在、コンサルタント業務で現役中。

北爪 宏 (7 S 34 日立市)

元気で居ります。総会の御盛會を祈念申し上げます。

駒澤廣志 (7 S 34 戸田市)

体調不完全。中田さん、牧さん、秋山君、栗原君、八田君、元気でなにより。栗原さん、いつもありがとう。

高岸義一 (10 S 37 神奈川県葉山町)

70才をすぎて、町内会長と民生委員をやっています。”静かな老後”を夢みつつ、”多忙な毎日”です。

嵯峨是人 (8 S 35 横浜市)

田舎に帰る予定があり参加できません。皆様によろしく。

本田正吾 (7 S 34 茅ヶ崎市)

6月、心筋梗塞で22日間入院、行動制限有。9ヶ月後、再度点検手術を受ける予定。

森下 悟 (11 S 38 町田市)

白門化学クラブでの「アルミの電解着色の研究」から早50年。その間、東ソーでの「ゼオライトー筋の仕事」38年。明治大学専任講師も今年3月で12年を迎え定年。すべて終わった。思いめぐらすこと、まさに走馬灯の如し。願わくば、サミュエル・ウルマンの言う「若さ」を持ち続けたい。

”若さ” サミュエル・ウルマン

”若さ”とは、人生の一時をいうのでない それは心の状態をいうのだ 逞しい意思、優れた想像力 炎ゆる情熱、怯懦(きょうだ)を乗り越える勇猛心、安逸を振り切って冒険に立ち向かう意欲 こういう心の状態を”若さ”というのだ。(松永安江エ門氏の訳)

富樫繁太郎 (1 S 28 三鷹市)

元気ですが、当日は所用のため都合つかず欠席します。盛会と皆様のご健勝を祈ります。

麻生健治 (3 S 30 西宮市)

いつもお便りありがとうございます。

橋本光史 (20 S 47 さいたま市)

囑託として引き続き務めております。リン資源リサイクル推進のために、微力ながら注力しております。

玉川智也 (8 S 35 松戸市)

中大CO2環境対策技術研究会の手伝いをしています。

永田和照 (7 S 34 岐阜市)

2年前にパオオにて脳梗塞となりましたが、リハビリにより歩行が可能となり、現在は、妻と共に海外旅行を毎月楽しんでおります。

深堀 隆 (18 S 45 横浜市)

昨年、会社を退職しました。

赤松 敦 (38 H 2 町田市)

今年は、10月発売の製品をいくつか担当しており、欠席させていただきます。

江本房利 (8 S 35 さいたま市)

会報にも書かせて頂きましたが、耳が悪く、講演の聴講、多数の中での対話の聞き取りが出来ません。事情お察しいただき欠席とさせていただきます。

鈴木邦威 (9 S 36 綾瀬市)

70才を越えても元気に働いています。新規開発もして、特許出願も毎年行っています。とはいえ、ゴルフスコアは落ちているので体力の低下は認めざるをえません。

柴 眞 (7 S 34 つくばみらい市)

2008~2009年、JICA水産加工専門家としてモロッコ王国に赴任。2010年~(社)大日本水産会「水産加工工場品質・衛生管理部会」委員に就任。

栗原 功 (7 S 34 平塚市)

孫の遊び相手と庭木の手入れが日課で、体調も良く、元気に過ごしています。

橋澤 晃 (8 S 35 佐倉市) 今年卒業後50年の節目の年をむかえ、盛大に同級会を行いました。健康に留意し旅行に、企業のOB会、同級会に努めて参加しています。今秋は中大の野球の優勝を願って応援に出かけます。母校の発展を祈りつつ。

田澤和久（29S56 千葉市）

父母の介護をしながらの生活をしています。

八田幹雄（7S34 横浜市）

相変わらず特許の仕事をやっています。技術革新におくれないように、常に勉強を必要とする仕事です。

大垣浩之（7S34 姫路市）

毎日元気に過ごしております。

会員寄稿

「孫と遊ぶ」

根津達郎（第 15 回昭和 42 年卒）

私は、元教師です。

最近縁あってお台場にある「日本科学未来館」で展示物の解説ボランティアを行っています。

僅か週 1 回ですが、とても楽しく伸び伸びと行っています。今まで生徒や父母と接するときは、どうしても「もっとこうなってほしい」とか「ここを何とか理解させたい」などという気持ちが入りすぎ、必要以上に自分を主張していたように感じています。

私は仕事とボランティアの差は「子供を育てる」のと「孫と遊ぶ」位の差があるように感じます。

同じ「科学の芽を育てたい・理科好きを増やしたい」という目標を持ちながら、気分的には大きな差を感じます。

ボランティアは給料をもらっている仕事と違い、責任は無いし嫌になったらいつでも辞めれば良い。しかし科学に興味を持って入館いただいている人たちに少しでもお役に立ちたい。こんな気持ちで始めたボランティアです。

たまに現役時代を思い出し、授業のように相手を自分のペースに乗せて説明したいときも有るのですが、それでは負けだと自分に言い聞かしています。

お客様が喜んでくれることが、自分にとっても最大の喜びとなるよう、さらに精進したいと思っています。

「春の息吹と地産地消」

三和酒類株式会社代表取締役会長 熊埜御堂宏實（第 17 回昭和 44 年卒）

厳しい冬でした。ここ九州でも朝は氷点下となり、自動車道は何度も積雪のため通行止めとなったほどです。立春を過ぎてから漸く、三寒四温で春の息吹が感じられる頃となってまいりました。穏やかな春の日差しを感じる日は、麦踏みの光景も散見されます。私どものここ宇佐平野は大分県一の穀倉地帯であり、稲と麦の二毛作が盛んなところでもあります。昨年の暮れ播種された麦は、寒さのなか芽吹き始めます。分蘗（ぶんげつ根に近い茎の関節から枝分かれすること）を促すため麦踏みを実施するわけです。最近ではトラクターにローラーを牽引して行われますが、小学校の圃場では元気な子供たちによる昔ながらの足踏みで体験学習をいたしております。

やがて春が過ぎ、夏を迎える 5 月末から 6 月にかけて、周囲の緑とのコントラスト豊かな麦秋を迎え取

穫となります。初夏の麦秋（いわゆる小麦色）と秋の稲の稔り（黄金色）は農村地帯の恵みの彩りです。

本格麦焼酎「いいちこ」をはじめ清酒「^{わかぼたん}和香牡丹」、ワイン「^{あしむ}安心院ワイン」を醸造いたしております。私どもの会社では、地元の農家と契約栽培を行い収穫された**大麦**や**お米**、**葡萄**を用いた醸造を行うことで、まさに地産地消を実施いたしております。それら原料には、醸造適正があり、またこの地で育成するに適合する品種である必要があります。それらを研究するのも私ども物造りの大切な要素です。

お客様にお届けする最終商品の良い品質とは、素材を極めること、造りの技を極めること、そして造り手の誠意が揃って初めて認められるものだと思います。神代の昔より醸されてきたお酒も、素材の品種改良、醸造技術の向上等を図り豊かな自然の恵みを生かし、おいしいお酒を醸しだしてゆきたいと念じております。

「50年目の集まり」

清水康光（第8回昭和35年卒業）

平成22年3月（2010）は我々昭和35年（1960）中大卒業生の50周年目である。この節目に温泉で一泊し同期の仲間と酒を酌み交わし、のんびり、ゆっくりと語り合おうと伊豆長岡に旅館を借り切り、3月第四水曜日に開催をした。

毎月第四水曜日は、神田で午後5時から「四水会」と称する10～13名程の飲み会がある。ボケ防止も兼ねて自由に意見を述べ、議論を戦わせる。政治・経済・教育・世界情勢・テレビ番組からマスコミ批判、健康・病気や仲間の消息等が話題となる。

1月の新年会は地方からも参加出来るよう午後3時に開催するが、アツと言う間に時間が来てしまう（卒業生69名中30名以上出席）、そこで50周年の会は一泊で計画されたのだ。当日、伊豆に72歳以上の老人どもが33名、九州・関西・東海北陸・東北の遠くからも出席した。

この会は2002年発足、翌年「四水会便り」が幹事さんの大変な奉仕で編集・発刊され全員に郵送、今年の2月で24号目となる。居ながらにして仲間の動静が分かるので好評を博している。原稿内容は自由でゴルフ、海外旅行、闘病記・親の介護、先祖からの家系図・自分の歴史、現役時代の思い出、300gステキ級肉厚椎茸作り、神社・仏閣・庭園・霊園・公園等の散策から、東海道中山道、日光等の五街道から信濃、木曾路、彦根・安土・関ヶ原と戦国の歴史めぐり等々を歩いて周る生き方、趣味の陶芸、ボランティア、CO2環境問題対策の見学会、戦後外地からの引き上げ当時の苦勞、外国駐在時の盗難事件、闘病生活、肥満体解消（96Kg⇒77Kg）など様々な話題。

モウー、皆に会えるのは最後！と身体が自由が利かないからと娘に運転させ、付き添いの奥さんと娘は別の宿を手配して参加、卒業以来初めて話を交わす仲間と夜が更ける、途中にカラオケ大会、未だ話が尽きない。翌日は朝風呂・朝食後三々五々雨天の中解散。

我が同期には、同窓会・三五会・技術士会の会長経験者が居る事から、夫々の立場で、化学クラブCO2環境対策技術研究会に参加して情報交換している。この他にも二木会（第二木曜日のゴルフ会）、海外旅行（年1回：ゴルフ・観光）があり、「四水会便り」に掲載される。因みに今年の新年会出席者は26名。

人の動き

中央大学理工学部応用化学科

退任（平成 23 年 3 月） 準教授加茂文三（第 13 回昭和 40 年）

訃報

鈴木美夫 平成 21 年 9 月逝去

松野清一 平成 22 年逝去

増渕正行 平成 22 年 11 月 19 日逝去

墨 一男 平成 22 年逝去

新入会員

中村博之（第 25 回昭和 52 年学部、第 27 回昭和 54 年大学院）

増田哲彦（第 27 回昭和 54 年）

川見達彦（第 27 回昭和 54 年）

本田善幹（第 27 回昭和 54 年）

森田光夫（第 27 回昭和 54 年）

近況報告（2011.4.5）

東日本大震災が 3 月 11 日に発生し弊社（小西安株式会社）の業務が大混乱して 3 月中に近況報告を提出するつもりが遅くなってしまい申し訳ございませんでした。

私は、昭和 54 年理工学部工業化学科（中田研）を卒業後小西安株式会社に入社し 26 年間製紙関係、中国本部 6 年、内 4 年半の上海駐在を経て現在第一営業本部工業薬品部に在籍しております。弊社は工業薬品の専門商社です。1828 年創業で 183 年の歴史を有しております。従業員数は 144 名で内中央大学卒は 13 名（理工学部 11 名、文系 2 名）と約 10%近くを占めております。主に工業化学科、応用化学科出身者です。

上海駐在時代、2009 年 3 月に上海白門会の設立に参加しまして現在でも帰国者が集まり上海白門会日本校友会を 3 カ月に 1 回くらいの割合で懇親会を開いております。

現在の私の業務内容は東日本の地方代理店向けに工業薬品、溶剤等を卸売しており甲信越、北関東、東北方面への出張が多いです。東日本大震災の影響で東北、北関東方面のお客様に弊社のメインサプライヤーである旭硝子鹿島工場、千葉工場が大きな被害を受け非常に厳しい状況に置かれております。

仕事以外では酒とゴルフが好きですので是非機会があれば皆さまとご一緒させていただければと思います。

以上簡単ではございますが自己紹介させていただきました、今後とも宜しく願い申し上げます。

中央大学創立 125 周年記念の冊子です。

この中から、工学部・理工学部関連の記事を抜粋しました。

「中央工業専門学校」の成立」

「工学部の開設」



編集後記

☞皆さんお変わりありませんか？ 予期せぬ大震災に遭遇し、国民の結束が必要な時です。会長以下幹事から支部の皆さんの安否を取らせていただく一方で、会報の発行に漕ぎ着けました。様子をお知らせしたい方は、事務局まで連絡ください。幹事 峯岸修三

☞大きな出来事が重なり完成が半月遅れとなってしまいました。思いがけず「絆」というコトバと漢字が頻繁に使われています。この会報が、皆様と白門化学クラブと中央大学とのささやかな「絆」となれば幸いです。 幹事 住吉宏明

中央工業専門学校の創設

財団法人中央大学は、一九四三（昭和十八）年十二月三十日、専門学校令に準拠した中央工業専門学校の設立申請書を文部大臣に提出した。この申請は翌年の三月十三日に認可を受け、機械科・航空機科からなる本学初の理工系専門学校が発足することとなる。

申請書中の「中央工業専門学校新設理由」によつて、当初は中央大学創立六十周年記念事業の一環として工学部の新設が計画されていたが、「工学部ノ施設ニ必要トスル物資ヲ調達スルコトハ容易ノ業ニアラザル」ため、「先ツ工業専門学校ヲ増設シテ他日工学部完成ノ素地」としたことがわかる。

このような工業専門学校創設の背景には、戦況悪化の中、「決戦」体制の構築を学校教育にまで貫徹しようとする政府・文部省の基本政策があったのである。

四三年十月十二日に閣議決定された「教育二回スル戦時非常措置方策」では、理科大学・専門学校の整備拡

充と文科系大学・専門学校の統合整理を推進することが達成目標の一つとされた。

また引き続き制定された「教育二回スル戦時非常措置方策ニ基ク学校整備要領」には、具体的な施策として、私立文科系大学の学部・予科の入学定員を従来の三分の一とすること、同系専門学校・専門部の入学定員を従来の二分の一とすること、同系大学・専門学校の統合と理科大学・専門学校への転換をはかること、などが掲げられていた。

「戦時非常措置方策」が規定通り実施されれば、私立の文科系大学・専門学校の存立が危うくなるのは誰の目にも明らかであった。そのため各大学・専門学校の関係者は、これらの措置の緩和を執拗に軍部や文部省へ働きかけながら、その一方で思い切った学内改革を実現する必要に迫られていたのである。

そのような情勢を踏まえ、中央工業専門学校を新設

し、あわせて四四年度の商学部・専門部商学科の入学募集を停止したのであった。理工系学部学科の新設拡充という点では、他の私立大学も同様の措置をとっていた。

四三年末から四四年初頭にかけて、東京明治工業専門学校の設立（明治大学）、法政大学航空工業専門学校の創設、専門部工科内の航空機科・電気通信科・鉱山地質科の増設（早稲田大学）、専門部工科の創設（日本大学）などの申請が相次いだ。

ところで創設時の中央工業専門学校は、予科校舎と学部校舎の一部を共用したもので、実験・実習設備は皆無



中央工業専門学校設置に尽力した設立委員
前列左より中尾金房・三橋市太郎・後列左より
柳井義博・大久保次夫・若林勝太郎・小野三郎・
海野徳蔵

の状態です。スタートした。不十分な設備環境での発足は、「戦時非常措置方策」に対して早急に対応せざるを得なかったことを示している。

このような状

況は、他の私立大学でも同様であった。本学が自前の実験・実習設備を設けるまでは、株式会社新潟鉄工所蒲田工場と日本小型飛行機株式会社府中工場を利用することとした。

具体的な教員構成については、機械科長には海軍少将中尾金房、航空機科長に日本小型飛行機株式会社技術部長の宮原旭を招聘し、二〇数人の教授・講師陣で初年度の授業を開始した。

修業年限は三年で、入学定員は機械科・航空機科とも一〇〇人ずつとされた。入学検定料・入学金はともに一〇〇円、授業料は年間二二〇円であった。初年度入学生の実数は判然としないが、四四年度の中央工業専門学校授業料取入が三七、四八〇円であることから、一七〇人程度の新入生ではなかったと思われる。

その後の敗戦を契機として、四五年十二月に航空機科は工業物理科に改変された。そして四七年三月には中央工業専門学校初の卒業生一五七人（機械科八六六人・工業物理科七一一人）が誕生した。そののち四九年四月の新制大学工学部の発足にともない同校は廃止され、わずか五年でその歴史に幕を閉じたのであった。

032 工学部の開設

一九四八(昭和二十三)年七月三十日、財団法人中央大学理事長加藤正治は文部大臣森戸辰男に、学校教育法第四条にもとづく新制の「中央大学設置認可申請書」を提出した。その目的は、「法律学、経済学、商学並に工学に関する理論と応用とを授け、其の礎(もと)を攻究せしめる」こと、また一般教養の諸学科を教授して個性豊かな人間形成に努め、社会文化の創造と進歩とに貢献することとされた。

これにより、法学部・経済学部・商学部(昼・夜間部)と並んで工学部(昼間部)が翌年二月二十一日に認可され、新制大学として四月一日から開講された。

実は、工学部の増設は四五年に舉行されるはずであった創立六十周年記念事業の一環として計画されていた。しかし、折からの戦況の悪化と四三年十月の私学統廃合政策に直面したため、機械科、航空機科(四五年十二月、工業物理学科に改編)からなる中央工業専門学校を四四

年に設立することとなる。新制工学部は、この中央工業専門学校の廢校を前提として開設されたのであった。

ところで「中央大学設置要項」によれば、工学部は、東京都下府中町本刈道九九〇番地に置かれることになっていた。四七年から翌年にかけて、本学は同地にあった府中製作所の工場を買収・改築して中央工業専門学校の校舎に充てる計画を進めていた。新制工学部の新校舎は、この土地に建設されるはずであった。

しかし、この買収計画は、結局実現には至らず、工学部は駿河台校舎のわずか四教室を実験室に充てて開講することとなった。当時の「学則」によれば、工学部には土木工学・精密機械・電気工学・工業化学の四学科が置かれ、その総定員は八〇〇人と規定されている。開講時の教室不足は、深刻な問題であった。

また開設当初の工学部専門科目の教授陣には、工学部長事務取扱に精密機械学の西村源六郎東京大学工学部教

授が就任(兼任)したほか、土木工学の第一人者であった横井増治工学博士(元京城大学教授)ら主として東大工学部の関係者が招聘されて、その陣容が整えられた。

西村教授は、「戦戦日本が自立していくために工学部の使命は大きい、国土計画のための土木工学、輸出振興のための精密機械学、工業全般にわたる電気工学、復興促進のための工業化学が必要とされる」とその抱負を語り、さらに「実験設備は私立大学では優秀なもの認め



工学部水道橋校舎

られるが、今後なお二、三年間に各学科の実験設備の充実を期待している」と、「中央大学新聞」二八三号で述べている。

その後、五〇年四月には

第二工学部(夜間部・総定員六四〇人)も開講した。五一年度から五三年度の工学部(昼・夜)の在学生数についてみると、八三〇人、一、二二四人、一、三三〇人に増加している。

この増加に対応して工学部の充実を図るためには、新たな施設を整えなければならなかった。そこで五一年三月、本学は工学部用地として文京区小石川町に校地八、〇四三坪(現後楽園キャンパス)を購入し、次いで水道橋駅近くの高台にあった回和鉱業所有のビルを購入して、それを工学部の教室として使用することとした。

工学部は、同年十二月に改修を終えた回和ビル、すなわち水道橋校舎(御茶ノ水校舎)に移転し、翌年一月には工学部移転祭を行った。この水道橋校舎への移転は、工学部にとって本格的な教育・研究活動をすすめていくための第一歩であった。

五三年、新制工学部第一回卒業生として一七一人が実社会に向けて巣立っていったが、彼らはこのような草創期の不十分な設備環境の中で四年間勉学に励んでいたのであった。